

いしづみ

# 良心の碑

### 聖書の言葉

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(ヨハネによる福音書8章31節から32節)  
(朗読：支倉 清)

### 11月 月例会

日時 11月21日(火) 2時～4時  
発表者 三瀬安彦  
テーマ 岡山における新島襄のはたらき

### 二つの使命

アメリカから帰国した新島襄には二つの使命があった。一つはアメリカン・ボードの準宣教師としてキリスト教を伝道すること。もう一つは同志社の校長として学生らを教育することであった。

### 学生らによる伝道活動

帰国の翌年、同志社英学校を設立した新島は当面学校経営・教育に時間をとられ、キリスト教の宣教に多くの時間を割くことが難しかった。そこで、学生(熊本バンドの余科生)が夏期休暇等を利用し、実習を兼ねた地方伝道により、新島の任務を補った。なかでも岡山には金森通倫、小崎弘道、徳富猪一郎らがたびたび訪れて伝道集会を開いて大勢の聴衆を集めた。

### 医療宣教師の活躍

1875年民権派の岡山県令・高崎五六は県立病院設立を企図し、院長に神戸のアメ



リカン・ボードの医療宣教師を招聘したいと申し入れた。これに対してアメリカン・ボードは医療宣教師ティラーを派遣した。

その後、アメリカン・ボードは3人の医療宣教師(ティラー、ベリー、ケリー)と女性宣教師(看護師)ウィルソンを岡山に派遣して「岡山ミッション・ステーション」を設置した。

### 同志社医学校

1882年11月新島は岡山に医療宣教師ベリーを訪ね、京都に医学校を設立する計画について意見を求めるとともに、協力を要請した。

このときベリーは新島の疲労を見て取って、ボストンのアメリカン・ボード本部に手紙を送り、新島に休暇を与え、国外に旅行させることを提案した。この提案は、1884年4月から翌年12月にかけての欧米旅行となって実現した。

### 研究プロジェクト

#### 新島襄の岡山におけるはたらき

- 三瀬会長から下記の提案がありました。
- 1) 「新島襄の岡山におけるはたらき」というテーマでタスクホース方式にて研究する。
  - 2) 研究の細目はタスクホースメンバーが協議して決める。  
例：民権派とキリスト教  
岡山ステーション  
岡山教会・高梁教会の設立  
近代社会福祉の先駆けなど
  - 3) 期間は1年乃至1年半
  - 4) 通常の発表と交互に発表する。

岡山シリーズは、大石道子「留岡幸助」、江澤香「備中松山藩と新島襄、そして福西志計子その1・その2」、八木橋康広「新島精神の淵源を探る」、そして今回の発表と続いてきました。

(文責：支倉清)

### 12月 月例会

日時 12月13日(水) 2時～4時

#### 内容 (1) 研究発表

眞下正雄『安部磯雄』  
群馬新島研究会との交流企画です  
司会進行：佐々木博子  
受付：河合式子・大石道子  
写真：木原康博  
聖書：坂本恵子  
祈禱：小崎敬子

(2) 忘年会(担当：片桐・江澤)  
会費3000円 蕎麦屋 山茂登

窓 11月は同志社の今出川キャンパスが最も華やぐ季節である。11月29日の創立記念日に向かって、あちこちでイベントが開かれ、月末には巨大なヒマラヤスギにクリスマスイルミネーションが灯る。ホームカミングデーにはOBやOGの歓声が響く。

にぎわいを見守っているのが、キャンパスの中央にある明德館であり、その壁面に書かれた「Veritas Liberabit Vos」(真理はあなた方に自由を得させるであろう)という

聖書(ヨハネによる福音書8章32節)の一節である。入学当時、これを見上げたものの、ラテン語を理解できるわけがなく、ぼんやりと眺めるだけだった。

この言葉の核になっているのは、「真理」であり、ここでの「真理」とは聖書を指していると知ったのはずっと後だった。しかし、若者がこれとは別のものを思い描き、多くの書物に親しみ、友と議論し、その結果として「真理」に近づき、それにより「自由」を勝ち取ることができないか、と受け止めても許

されるだろう。「良心」に近く歩みともいえるだろう。キリスト教とは関わらない多くの図書館でも、この一節が好んで掲げられているのはそのためではないだろうか。

大事なのは「自由」の意味である。チャペルアワーなどでは、束縛されない自由ではなく、なすべきことを決断する自由が大切なのだと話される。いろいろな制約や条件の中で自分のあり方を判断し、選択する自由が本来の姿なのだ。明德館にあるラテン語での「自由」は英語の

「Liberty」の語源である。「Liberty」がもともと自由でなかった状態から解放され、勝ち取った自由を意味する言葉であることもかみしめたい。

若い時にこのように感じ取っていれば、自分の人生ももう少し豊かになったのにと悔やんでも、もう遅い。キャンパスに集う学生諸君は、こうした言葉に見守られている喜びを感じているだろうか。言葉に囲まれている若者は幸せである。

(福間 幸)